

## 国土交通省政策会議（第5回）議事要旨

1. 日時 平成21年12月2日（水）17:00～18:00

2. 場所 中央官庁合同庁舎第3号館（国土交通省）10階共用大会議室

3. 出席者

【国土交通省】馬淵澄夫副大臣、辻元清美副大臣

長安豊大臣政務官、三日月大造大臣政務官、藤本祐司大臣政務官

4. 議題

- ・ 経済対策について
- ・ 地方分権について
- ・ 事業仕分けの結果について
- ・ 国土交通省成長戦略会議について
- ・ 観光立国推進本部について
- ・ 国際コンテナ・バルク戦略港湾検討委員会について
- ・ 直轄事業負担金に関するワーキングチームについて
- ・ 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議について
- ・ その他（税制改正について）

5. 議事要旨

（1）馬淵副大臣挨拶

（2）議事要旨

- 配付資料に沿って説明
- 質疑

（3）出席議員からの主な意見

【経済対策について】

- ・ 経済対策で公共事業は対象としていないが、地方の末端の事業者にとってはまさしく暮らしを支えてきた事業である。ある程度の配慮が必要なのではないか。
- ・ 雇用効果、経済効果を精査することで質を重視しようとする姿勢は良く分かるが、現在の経済状況においては、量の方も問題にしなければいけない。

【事業仕分けについて】

- ・ バス運行対策費補助、バス利用等総合対策事業、地域公共交通活性化・再生

総合事業については、重要な役割を果たしていることから、復活をお願いしたい。

#### 【国土交通省成長戦略会議について】

- ・ 公共事業による地域活性化ができない状況でどのように地域活性化を行うのか。特に、地域の建設業は厳しい状況である。成長戦略会議において取り上げて欲しい。
- ・ 各種審議会、特に成長戦略会議の委員の人選はどのように行われているのか。海外から2000～2500万人もの観光客を呼ぼうとしている中で、多くの国において旅行の主導権を握っている女性の視点が必要である。できる限りバランスを取っていただきたい。

#### 【観光立国推進本部について】

- ・ 今後、各省と協議・連携を進めていく中で、コンソーシアムワーキンググループ、特にニューツーリズムは地域再生の最大の効果があると考えられる。農業、林業、漁業の体験はとても人気があり、第一次産業と連携して、地域産業の活性化や観光振興に力を入れて進めてほしい。

#### 【今後の治水対策のあり方に関する有識者会議について】

- ・ 「有識者会議」メンバーは中立なメンバーから選んだとのことだが、ハツ場ダム推進の立場で論文を出した方が含まれている。
- ・ 議事録を公開すべきである。
- ・ 傍聴可の会議もある中で有識者会議が傍聴不可である理由は。
- ・ 有識者会議はどの程度の頻度で開催されるのか。
- ・ 今までの他の会議の議事要旨のまとめ方には問題があった。民間人か副大臣・政務官が人選した人に議事要旨作成をまかせるようにしてほしい。
- ・ ダム地元の地域振興や生活再建措置の法案は次の通常国会に提出される見込みか。
- ・ 143ダムの見直しについての22年度予算における最終判断は。
- ・ ダムに頼らない立場の専門家、ダム反対派の人の意見を聴く場を設けてほしい。
- ・ 「有識者会議」の公開の是非を委員に諮ってほしい。
- ・ 民主党のマニフェストには公共事業の撤退に関する地域振興・生活再建についての法案があり、ダムの中止・継続もこの範疇に含まれるのではないか。